

日本地震再保険・トーマ再保険 合同社内講演会

「科学の伝道師」鎌田浩毅京大名誉教授大招へい

南海トラフ地震の発生時期明言

日本地震再保険とトーマ再保険は11月8日、東京都千代田区のトーマ再保険の会議室で、合同社内講演会「南海トラフ地震・富士山噴火・首都直下地震の科学的予測とリスク軽減の保険戦略」を開催した。「科学の伝道師」として名高い京都大学の鎌田浩毅名誉教授・京都大学レジリエンス実践ユニット特任教授が講師を務め、南海トラフ地震や首都直下地震、地震によって噴火が誘発される可能性がある火山について最先端の地球科学が示す災害予測と減災対策を紹介した。当日は、会場とオンライン配信を合わせて両社の社員約80人が聴講した。



伊東社長

開会あいさつに立った伊東社長は、「私は仕事柄、よく『巨大地震はいつ来るのか』という質問をするが、専門家の先生は『30年以内に70%の確率で起きると言われている』と当たり前のように答えられる。私からすると、天気予報で、これから3週間以内のどこかで雨が降ると言われているように感じて、いつ傘を



鎌田氏

持っていると言われている。積極的に楽しんでいただければ幸いだ」と呼び掛けた。鎌田氏は東京大学理学部地球科学を卒業後、1979年に通産省(現・経



松永社長

同氏ははじめに、東日本大震災以来、日本列島は1000年ぶりの大地変動の時代に入ったと語り、東日本大震災が南海トラフ地震や首都直下地震の確率を上昇させたメ

カニズムを紹介した。その上で、南海トラフ地震については100年周期で発生して

また、大学の授業でも専門と教養の二つの柱の重要性を訴えてきた同氏は、「専門(サイエンス)だけでは人々を救うことはできない」と語り、①知識は力なりの長尺の目③知識と教養①の3点が重要だと強調。被害予測に基づいたリスクマネジメントの重要性も併せて訴えた。

参加者からの「常に一定数存在する(地震や地震保険への)無関心層へのアプローチはどのようなアプローチがよいか」という質問には、「まずは相手の関心に寄り添うことが重要。私が授業ごとに服

済産業界)に入省。主任研究官を退官後、1997年から京都大学大学院人間・環境学研究科教授を務め、2021年に京都大学名誉教授・京都大学レジリエンス実践ユニット特任教授に就任した。専門は地球科学・火山学・科学コミュニケーション。著書も豊富で、テレビや新聞などで科学を明快に解説する姿から「科学の伝道師」と呼ばれている。

さらに南海トラフ地震が発生すると、現在「噴火スタンバイ状態」にある富士山の噴火が誘発される可能性が高いと指摘。火山の噴火は地球寒冷化につながるため、現在世界的な課題とされている温暖化への対策は大きく覆される可能性がある」と警鐘を鳴らした。

参加した若手社員からは「地震と火山の連動性が分かり、現実感が湧いた」「地震や火山噴火、温暖化などの内容について、今までとは違う視点で学ぶことができた。また、相手への伝え方なども含め、大変勉強になった」と鎌田先生の考え方は災害対策に限らず参考

講演会後、伊東社長は「鎌田先生の話は具体的に非常に分かりやすかった。2035年マイナス5年にあたる2030年

までの中長期ビジョンの実現を目指して、折り返し点を過ぎた第6次中期経営計画(2021年度〜2023年度)に、全社員とともに取り組んでいきたい」と感想を語った。